



YMCA

月刊 The YMCA 付録
 編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地
 大阪青年 発行：末岡祥弘 編集：大阪 YMCA 広報室
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
 TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年

2007 Nov. 11
 No. 600

2007年度年間聖句
 「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
 どんなことにも感謝しなさい」
 (テサロニケの信徒の手紙1 5章16~18節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはくくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

高慢ならぬ真の誇りと、 自己卑下ならぬ真の謙遜をもって共に祈ろう

公益法人制度改革関連三法が公布され、これまでの財団法人は、遠からず一般財団法人か公益財団法人に改組されます。YMCAもその例外ではありません。

広辞苑によると、公益とは「広く世人を益すること」となっています。これこそYMCAが、その発祥当時から目的としてきたことであります。

とりわけ、今回定められた公益法人認定法が、公益と認定すると決めた23事業のうち、(7) 児童、青年の健全育成 (9) 教育、スポーツを通じて国民の心身の健全発達に寄与。は、将に大阪YMCAが125年の歴史を通じて力を尽くしてきたことに他なりません。

ところで、あらゆるところに、自明のこととして用いられている教育という言葉に、人々はどのような意味をもたせているのでしょうか。

カントは、人間に対する深い洞察のもとに、「教育とは、人間が人間になるための助力である」と規定しました。

彼の言葉を借りて、私達の考えを述べるならば、聖書の告げる人間観に基づいて「教育とは、人間が人間になるために仕える業である」と規定することができましょう。

顧みて、大阪YMCA125年の歴史を誇るとすれば、あるいは今、その業に関わることを誇るとすれば、それは自らの業績に対するものではなく、与えられた使命(ミッション)を果たし得た誇りでなければなりません。すなわち、神の召命(コーリング)に応答(レスポンス)し続けようとすることに對する誇りであり、喜びであり、感謝であります。

また、ルッターの「キリスト者の美德は、一にも二にも謙遜である」との言葉と想像を合わせて、高慢ならぬ真の誇りと、自己卑下ならぬ真の謙遜をもって、更なる公益性の充実に力を尽くし、祈りを共にしたいものです。

愛によって互いに仕えなさい。

律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

(ガラテヤの信徒への手紙5章13・14)

学校法人大阪キリスト教青年会理事

にしむら
西村

こう
耕

地の塩

▼教育においてよく「人材」育成ということばが用いられます。私は、人材ということばに人間をその能力や有用性によって判断しようとする現代社会の風潮を強く感じます。教育は才知ある役に立つ人材を育てることではないのだからかという疑問を禁じえませんが、教育にとつて最も大切なことは、ひとり一人の存在が、自身自身を受け入れ、自分なりの意味を見出し、喜びをもって生きることのできる人間となることを援助することではないでしょうか。青少年時代にYMCAで育った人たちの多くが、Yでの生活から生き方に大きな影響を受けたことを思い起こすのは、その若き日々の生活が自らの人間としての成長に大きな意味をもっていたからでしょう。

▼教育について考える場合に、重要なキーワードとして「潜在カリキュラム」(hidden curriculum)があります。カリキュラム(教育課程)では教育目標に向けて何がどのように教えられるべきかが記されるのが普通です。確かに知識に関する教育においてカリキュラムは重要な意味を持ちます。それに対して潜在カリキュラムとは教育が行われる場における無形、有形の雰囲気とも言つべきものを意味します。それは教育の行われる場のもつ価値観や人間理解を、意図せずとも表し、人の自己理解に大きな影響を与えます。▼有用性をもつ人材の教育が教育目標とされがちな今日の状況のもとで、人間として共に育つことを喜びとする生き方から生じるYの潜在カリキュラムを大切にしたいと思えます。

(奥田和弘)